

刊夕日五廿月六

# 常盤每日新聞

定額一圓、一ヶ月五拾圓、郵費五拾圓  
 支店 東京五區千代田区千代田一丁目五番五拾圓  
 日曜 日曜日の翌日休刊  
 発行所 常盤毎日新聞社 電話六三〇〇  
 印刷所 常盤毎日印刷株式会社

## 本源に還れ

眞 繼 雲 山

世界にはいろいろの宗教が譯山にある、その異なる宗教と宗教との間には千萬里の隔たりありとの考へ方は今日となつては最早や昔の夢に属する、近代の宗教研究の結果はその重なる共通点があるばかりでなく、その本源とするところが漸次に明白となつて来た。これを佛教と耶蘇教とに就いて見るとき、その教理に遠ふし禮拜の對照も異なることであるからその点では固より同一とは言へないけれど、しかし理性から考へて天の一角にゴットがあり他の一角に阿彌陀佛あり乃至回教のアラーが控へてゐるといふやうに宇宙の領土的に占有して群雄割據してゐるものでないことは常識的にも察せらるゝ、固より宗教とは理性や常識や學問ではないけれど而かもそれ等と衝突し背馳するものであつてはならない。

これに要するに各宗教の本源は一つである、その一つの本源が歴史や國語を異にして、それ／＼に表現されたところにも多くの宗教が生れたのである、釋尊は印度に、基督は猶太に、孔子は支那に、マホメットは亞刺比耶にそれ／＼の教祖として生れその歸史とその時代とを背景にしてその國情に相應する宗教を立てた、言説として現はれたそれ等の教理には多くの距離あるも、その共通した根本の眞理は一切萬物は宇宙の本體の活現であり、森羅萬象はその本源の分派としての存在だといふことである、それが悉有佛性と説かれ神の子と説かれ、天の命なりと説かれてゐるのである。

斯くして私たち人間は本體本源の表現として生きてゐるのであるから、少くとも私たちの理想は神の心佛の心を自らの心として生きてゆかねばならぬといふに歸着する、その個々の表現形式は縁の集散によつて生滅無常を免れない、けれどもこの本源そのもの本體そのものに生滅は無いといふところに永生の世界が展開する、基督教においてはこの本源を神といふのであらう、佛教に於てはこれを法性眞如の都と見る、略して佛といふも不可なし、涅槃に入るとは眞如の本體に還るといふことであり、即身にして法性眞如を體現し得ばそれが有餘涅槃の姿である安養の淨土に還歸するといふは是れ亦た宇宙の本源に還元することである、それを死といふ文字に緊縛されて恐怖し悲泣するのはひとへに煩惱迷妄に外ならぬ。現身このまゝが法性眞如の活現でありとして、その本體と交響流通するとき、そこに無上の歡喜と法悦とが湧く、若しその自信を失ふたときに私たちは生きてゆくべき力を絶たれて、人生の孤獨と寂寞とに堪えぬであらう。

人間の價値標準を貧富によりて榮落によりて官等によるとなすのは因襲に囚はれた錯覺である、神の心、佛の心をもちて己が心としてゆくものほど人間としての尊さは高いのである、その神佛の心に遠ざかりゆくものほど人間としての尊さは失はれるのである。

佛の子としての自尊を失ふたときに「私は朝夕の飲食もその味ひなきを覺ゆる天上天下唯我獨尊」と叫ばれた釋尊の偉大なる聲に共鳴し得るとき私は無限の歡喜に生きるのである。

## 外科

X 光線科  
 性病科  
 外科科  
 科科

平町田町

### 安齊外科醫院

電話四七五番

入院隨意

## 正札堂の夏服

- 黒ヒルセビロ上下 六圓ヨリ
- パンビースセビロ上下 八圓五十錢ヨリ
- ボーラーセビロ上下 九圓ヨリ
- ボーラー最上品三ツ組 拾八圓五十錢
- 白ズボン 七拾五錢ヨリ

## 正札堂洋服店

電話四三六

赤い目に一滴できく

家傳 神 教 水 (新容器入)  
 目薬 平町二丁目(電話三二六) 堀 藥 局

金 銀 高價買入ます  
 プラチナ 平町田町丸新デパート 假 營業 所

## 根本時計店

## 三井

## タクシー

電話六八五番

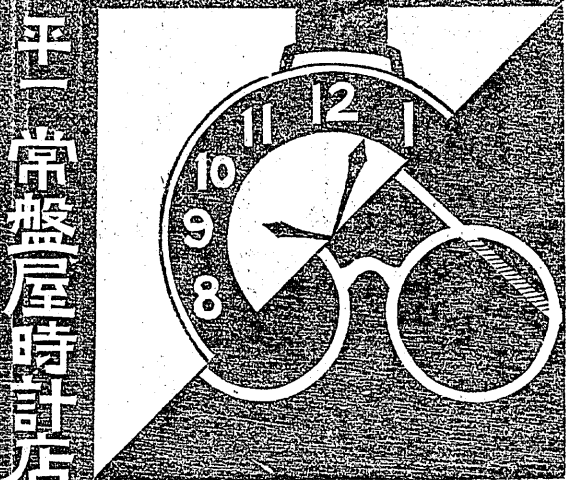
## 電話特別開通ノ申込受付

- 一 受付期間 七月 自十一日 二十日間 至三十日
- 一 設備費用 金貳百四拾圓(前年ハ四 百圓ノ處減額トナル)
- 一 申込用紙 當局ニ備付アリ
- 一 其他詳細ハ當局窓口又ハ電話七〇〇番ニ照會ノコト

昭和七年六月二十一日

## 平郵便局

## 正確な時計



好適の眼鏡

### 平 常盤屋時計店

## 涼味百パーセント菊地の白靴

お若いお方にノーズル型  
 最新角型はモダン好み  
 お中年のお方は先細型  
 とてもシイクで値が安い  
 当店自慢のリネンシュー  
 三、二〇ヨリ……五、〇〇マデ

## 菊地靴靴店

電話(呼)四三六

# 涙に

## 語れぬ

### 將士の勞苦

#### 井上野崎の兩氏 近く講演會開く

昨日元氣で歸平

滿洲旅行に依つて本縣出身將士の慰問を無事に済した縣參事會員井上茂作、野崎滿藏の兩氏は昨日午後四時卅六分平驛着の列車にて歸平したが驛頭多數に出迎られた兩氏は旅の疲れも見せず夫々簡單に一應の挨拶を述べ續いて伏見町長出迎者を代表して勞を稿つた尙ほ近く有志主催で兩氏の講演會を開くと因に井上氏は語

「まだ旅行中の様な氣がして感想も纏まつて居ないが云ふ迄もなく非常に得る處の多かつた事を喜んで居る、殊に自分は獨りで上海へ赴き同地に六日間滞在つぶさに諸般の狀態を視察して來たが滿洲、上海共に我が將士の勞苦の程を察せられ涙な

## 篤志獎學會

### 愈よ救濟開始

#### 最初三名程に 學費給與する

磐城中等學校篤志獎學會にては會員募集中の處既報の如く教諭迄参加し六十餘名に達したので來る二十九日磐城中に於て役員會を開き給與規定を設ける事になつたが最初は試みに三名位救濟の豫定である

磐崎村長再選 石城郡磐崎村では去る廿二日午

既報平第一小學校にては去る二十日より本日迄各學年別に父兄母姉懇話會を催し

## 參觀父兄

且つてなき盛況

前午時より村長改選村會を開會したが酒井嘉藏(政)氏が最高点で再選された

## 平第一の

たが日々の參觀者は合計六百八十五名にて今迄にない盛況振りであつたと  
家具製作傳習會 仙臺市の工藝指導所では來る九月一日より十一月迄の三ヶ月間、家具設計、洋塗、原型製作等に就いて傳習生を募集する旨本日町役場に通牒があつたが希望者は町役場に照會され度いと尙申込期日は七月末日迄である

## 改正を納得し

### 夫々上り湯を 規定通り改正

既報今回改正された湯屋營業取締法に依つて從來流し湯の一隅にあつた上り湯槽を廢止され變つて湯水を別にして各三ヶ以上のバルブ栓を取付る事となつたので釜の一部も改造せねばならぬのとバルブ栓に改めた結果上り湯を不經濟に使用されるといふので既に反對の意見を持ち出して騒いだ組合もあつたが平町の組合では問題も起らず夫々改造される模様である

## 田村對野球

### 明日舉行さる

既報磐城中學校及び平商業學校對田村中學校の野球戦は明日磐中グラウンドに於て舉行されるが田村中學校選手十六名は渡邊部長に引率され明朝平着八時二十分に來平午前九時より磐中午後二時より平商と各々對戦すると

## 蘭市況

四倉市場 廿四日

△白蘭 千九百九十八貫 最高二十六圓十錢 最低二十圓二十錢 買馴二十圓三十九錢

△黃蘭 六百九十四貫 最高二十五圓五十錢 最低二十一圓三十錢 買馴二十四圓二十錢

植田市場 廿四日

△白蘭 五十二貫 最高二十五圓 最低二十圓 買馴二十四圓五十錢

△黃蘭 二千六百二十八貫 最高二十六圓五十錢 最低二十四圓 買馴二十五圓

## 本郡教育刷新上

### 努力すべき事項

#### けふ校長委員會協議

既報石城郡下小學校長委員會は本日午前十時より平第一小學校に於て開かれ會長會我直治氏より提案された本郡教育刷新上努力すべき事項如何に付各々意見を交換し引續いて石城郡体育協會役員會を開き本年度の事業に關する件の協議をなした

## 平町人事

△月見町一九當時茨城縣多賀郡日高村字田尻根本正尚氏五男豊

△仲間町七二會田勇氏三女文字

△東京府下北豐島郡南千住町三丁目一二七坂齊致雄

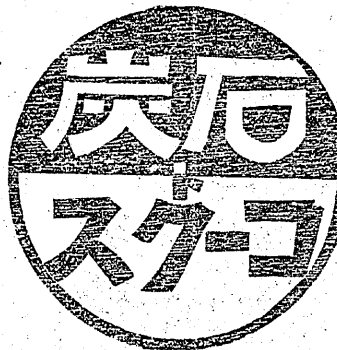
△山名ミツ(三〇)

在滿召集兵慰問の爲め出發に際しては種々御高配を蒙り難有く奉深謝候以御蔭無事其の任を盡し昨日歸平の際も御多用中態々御出迎へを賜り重々感銘此事に有之候一々拜趨御禮可申述答の處乍略儀不取敢紙上御厚禮申述候 敬具 六月二十五日

## 兩殿下御買上の

御料 鹽 豚

田町 三二二三屋 電話三二三番



若しも 皆様方が よい品を お安く お求め 先づ...先づ 三三七番へ

よい品を安く賣る店 電話三七七番 阿部石炭商店

内科小兒科花柳病科

# 藤沼醫院

入院 電話五〇七番

# 亭主の機嫌のよい 顔を見たさの萬引

## 女賊燕のお千代が自白 生れ乍らの不運な境遇

### 被害約六百圓

既報去る廿一日石城郡内郷村字金坂橋本屋吳服店で萬引して平署に檢舉された同村金坂五一佐藤松太郎

#### 内縁の妻

福島市陣場町生れ森田チヨ(五)は其後平署で取調中であるがチヨは亭主の機嫌のよい顔を見たさに内郷、湯本、平等に出掛て三十餘件約六百圓に達する萬引を行った事自白に及んだが同人は生れ乍ら

して両親を失ひ子守や女中奉公に轉々とし十五才の時初めて萬引を覺え仙臺刑務所に三ヶ年を暮して來てからは本物の女賊となり燕のお千代の異名をとつたが最近では寄る年波に夫に捨てられるのが辛さに何んとかして機嫌を取り結ばんと萬引を働いて居たものであると

## 子供の飲料物に 親達の注意大切

### 色付砂糖水は腐敗が早く それを飲むと下痢を起す

平署の不良飲料水取締の結果は昨報の如くであるが其内でもラムネと共に市内で最も子供間に歡迎される一錢賣り色付砂糖水はコルク栓の不完全から諸飲料水のうち最も早く腐敗し混濁物を生ずるが是れを飲めば直ちに下痢を起し赤痢やチブスに罹る懼れが多いから一般家庭の親達も子供の買え飲み物に常に注意して欲しいと

## 白米の 小賣値

### 幾分騰る

平附近の農家及び商人間には持米手薄と共に期節的關係もあつて本月十五日頃迄四等建値一俵八圓二十錢を上下して居たものが廿日には八圓三十三錢となり十二

## 突然の豪雨に 本町通り浸水

### 一時は交通遮断さる

平地方は本日午前十一時半頃突然車軸を流さんばかりの大雷雨あり西村屋薬店、伊關吳服店間の下水道溢水し一、二丁目北側一帯十數戸商店に浸水した外、國道に泥水流れて交通遮断の姿となり一時は大騒ぎを演じたが此の他各町にも床下浸水あり約一時間を経て雨勢衰へ舊に復した

## 演習怪俄 明日退院

既報平商業學校五年生齋崎村字藤原森田正光(二)は去る十一日飯野村古宿地内で野外演習の際火薬で右肩及び上唇に大火傷を受け新川町木村病院に入院加療中の處全治し明朝退院すると

## 時計を爆弾代り 投げ付けて負傷せしむ

### 借金か喧嘩の原因

石城郡湯本町字八仙坑夫栗山道郎(三)は去る廿三日午後九時ころ同僚の西田米藏(三)方で飲酒の際金銭の貸

### 明日のラジオ

廿六日

今晩は北東の風  
曇り驟雨が  
ます明日は北の  
風曇り一時晴れ

- #### 今晩の部
- 後六、〇〇 子供の時間
  - 童話劇「田村三代記千熊丸」仙臺児童史劇會
  - 後六、二〇 コドモの新聞
  - 村岡花子
  - 後六、二五 カレントトビックス
  - 後七、三〇 講演「精神生活の基礎」大谷派本願寺管長大谷光暢

- #### 豫告
- ##### 明日の部
- 前九、三〇 齋唱と獨唱(十二曲)本郷永川兩校児童
  - 前一〇、〇〇 宗教講話「歴史と基督教」石厚謙
  - 前一〇、三〇 講演「初めて繪を観る人へ」山元春
  - 後〇、三〇 謡曲講座「謡の道しるべ」二四 櫻間金太郎 池内信嘉
  - 後一、〇〇 女流大會 一長唄「秋色種」軒屋五三 外 二歌澤(二つ)歌澤寅外 三清元「笹花手向橋」

- #### 江名豫防注射
- 石城郡江名町では来る廿一、二三日の間同町小學校及び中ノ作分校に於いて腸チブスの豫防注射を行ふ事となつた

## 未成年者の喫煙 警官に告發さる

### 警官に告發さる

平町新川町三一山田吉太郎(三)は未成年でありながら昨廿四日自宅でパイプを吸つて居たのを平署員に發見告發され父親を平署に呼出重に處罰すると

## 今度は警中へ賊 平商を襲つたの同一人

### 平商を襲つたの同一人

磐城中学校事務室へ昨日午後十二時半頃何者か忍び入り各教諭の机其他より運動靴、ズボン、シャツ、本等窃取逃走したる者あり目下平署で犯人嚴探中であるが手口より見て一昨夜平商業學校へ忍入つた賊と同一人

## 歸らぬ 亭主に

### 妻から説諭願

双葉郡大堀村字杉森上生庄

吉(三)は妻ウメ(二)を捨て、情婦の木村タマ(五)と共に平町新川町木田次郎方に寄食して居るので妻から再三歸宅方を追つたが振り向きもしないので妻は生活難に陥り本日平署に夫歸宅方の説諭願出た

## 平職業紹介所報告

- #### 求人部
- △女中 二十五才迄 尋卒 月三圓外チップ(平町某飲食店)
  - △出前持 二十才前後 尋卒 給料面談(平町某)
  - △子守 十四才位迄 尋卒 仕着小使(平町某醫院)
  - △求職の部
  - △漬物店員 三十一才 尋卒 給料面談(平町某)
  - △雑夫 二十五才 高一修 給料面談(三坂村某)
  - △車力 三十三才 高卒 給料面談(赤井村某)
  - △自動車運轉手 三十一才 尋卒 給料面談(平町某)



# 幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫雲 畫

第八十五席 眞庭念流達人櫻井五助

林藏の外出を止む

秋山要介は三河屋権八が申すを聞いて

要「ウム然うだ、高萩の猪之松を殺したはあの林藏だそれが何うした」

権「今度の賭場には猪之松の兄弟分も大分来て居りま

すから林藏が此處に居ると

知つた時はどんな間違が起

るかも知れません、何うか

先生、この博奕の切り上る

まで赤尾のを外へ出さねえ

様にしておくんさい」

要「然うか、イヤ俺もこの

大野には高萩の兄弟分も多

く来て居るは承知の上であ

れを伴つて参つた、然し迷

惑とあらば三日間他出を禁

じて置くが、活物だから俺

が止めても出るかも知れぬ

その時に苦情があつては俺

が困る」

権「御尤もでございます、

然し先生、成るべく出さな

い様にして下さいまし、お

願ひ申しました」

と頼んだ、権八は今度の

賭場に就て自分が世話人で

ある、林藏の爲に間違ひが

出来ては懐中が違ふのみな

らず三日間を當に店を開く

商人も喧嘩の爲に迷惑する

それ等の無いやうにと秋山

要介に成るべく林藏を旅籠の出雲屋に置いて他出をさせぬやうにと頼んだ、要介も恚う云はれては林藏を外へ出す譯になりません、スルと思ひも寄らぬ事から茲に大喧嘩が湧いて来て、そ

と目指された林藏が仲人の役に當るとは世の中は豫想通りに行かぬもの、またどうして林藏が仲人をするやうな喧嘩が出来たか、それは恚ういふ譯、十月の十一日から十三日までのお會式博奕場所前にも申した通り甲州身延山下大野ヶ原、これへ十一日の夕の七ツ下りに来た旅人風の男、眼球の大きな色のクツキリと白い年齢二十八九、袖の袷に單衣物を纏ねて裾を高く蹙げ盲編の大津脚絆に甲掛草鞋穿き銅鐵造銀の銅輪の入つた道中差を腰にして菅の



三河屋権八

れを林藏が仲裁する様な事になつた、此人が外へ出たらば猪之松の兄弟分が助けでは置かぬ、殺すであらう、然うなれば秋山要介が黙つてゐない、屹度喧嘩になるとかう思つて三河屋が林藏を外へ出さぬやうにと止めた所が喧嘩の種を蒔く

笠を左に持ち賭場をズツと見ながら来たが  
男「大したものだな、人間の慾程恐ろしいものは無えなうめえ處を賭り込んで歩く事の出来ねえ程金を背負つて歸らうといふ強慾の奴が此處へ集まるんだ、マア人間の形は、でゐるが羽織

を被た慾が坐つて居る様なものだ、それは宜いが親分も此處へ来たらうな」  
獨言を云ひながら西側の賭場を見て行くと右側に上州藤岡慶助持と書いた板割が出て居る  
男「ア親分の賭場は此處だ何處に泊つて居るか」  
と近寄つてその板割の裏を見ると三河屋旅籠としてある  
男「此處へ行つて待つてゐるとしよう、モン、其處へお出なすつたお方」  
○「ハイ何んだね」  
男「三河屋といふ旅籠屋は何方でございます」  
○「此處から下へ一丁程下ると前に大きな杉の木のある旅籠屋だね」  
男「どうも有難うござんす……」  
教へられた通りに来て  
男「此處だ、杉の木がある、ハイ御免なさい」  
女「入らつしやいませ」  
男「藤岡の親分の泊つてゐる宿は此方だね」  
女「ハイ左様でございますよ」

岡の貸元から盆を買つた者だ云は、藤岡の若い者で久しく旅へ出て居て今度お會式博奕に就て定めし親分も来て居るだらうと思ひ、はる、此處へ訪ねて来た、何も木戸を突かなくとも宜からう、服装は悪いが旅籠賃には差支無え、懐中へ手を入れて見ねえ、銅巻に目方があるからと」  
云ひました。

運動靴は……

月 星

品質は斯界の王  
名入れ金具付きの

サーピス

平田町

大塚運動具部

電話七七番

一冊の代金で  
御希望通りな

五冊の雑誌が  
自由に讀める

川崎 回文庫

電六三〇番

(申込次第規則書進呈)

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町  
電話一七〇

例年の通り  
氷水 始めました

多少に拘ず御用命御引立の程願上ます  
特 アイスクリーム(山盛) 金十錢  
あづきアイス(同) 金五錢  
製 ミルクケーキ(同) 金十五錢  
リータ水 金十錢

其他氷水各種  
出前迅速

平一丁目

藤 寅

電話……一四一番

專 門  
産 婦 科  
花 柳 病 科

◎入院應需

井 坂 醫 院

平町田町 電話五五九番

代理店新設

當地方に古き關係の深い而も業績のよ  
い安心の出来る 健實なる 有  
隣生命 保險株式會社の代理店を引  
受けました。何卒御利用の程を御願ひ  
致します。

有隣生命保險株式會社

平北城主幹代理店 佐々木龍若  
附屬 社員 志賀 寛

一齒 一科 東京醫學士 中村文一  
平町鍛冶町 吉田吳服店西隣